



(2016年12月21日送付)

プレスリリース [発信 No.28 004]

練馬区役所アトリウムミニステージが20周年

～大谷康子さんがヴァイオリン演奏を披露～

練馬区役所で21日(水)、20周年を迎えた「アトリウムミニステージ」が開催された。

この日は、日本を代表するヴァイオリニストで、公益財団法人練馬区文化振興協会の理事長であり、アトリウムミニステージの選考委員を当初から20年務める大谷康子さんが登場。普段の約2倍となる588人の聴衆が集まり、会場である区役所1階のアトリウムは人でいっぱいになった。「愛の喜び(クライスラー作曲)」「アヴェ・マリア(グノー=バッハ作曲)」などの曲が演奏され、アンコールでは大谷さんが客席の中に入って演奏すると、大きな拍手が湧き上がった。

大谷さんは、「毎月開催しているアトリウムミニステージが20周年を迎えることができました。区役所に住民票を取りにきた方や小さなお子さんなど誰でも気軽に音楽を楽しむことができ、このコンサートは『まちに音楽があふれる』という私の理想につながっています。これからも皆さまの応援をお願いします」と感謝の言葉を述べた。

また、平成29年に行われる練馬区独立70周年記念事業のひとつとして、練馬区と練馬区文化振興協会が主催し、平成29年8月5日に練馬文化センターで「真夏の第九」が開催されることが大谷さんから発表された。



【アトリウムミニステージ】

区民の方に気軽に音楽を聴いていただくため、平成8年12月に「アトリウムミニコンサート」として練馬区が開始。クラシック音楽を中心に、練馬区役所1階アトリウムで毎月第3水曜日の午後0時15分から30分間実施されている。平成23年4月からは、「アトリウムミニステージ」と名称変更し、練馬区文化振興協会と練馬区の共催により実施している。

【大谷康子プロフィール】

東京芸術大学、同大学院博士課程修了。昨年、デビュー40周年を迎えた人気・実力ともに日本を代表するヴァイオリニスト。華のあるステージ、深く温かい演奏で聴衆に感動と喜びを届けており「歌うヴァイオリン」と評される。1708年製ピエトロ・グアルネリ使用。昨年共演したキエフ国立フィルとの日本ツアーは成功を収め、来年5月ウクライナのキエフ音楽祭オープニング公演に招待されている。また今年12月より大谷康子の10年プロジェクト「ヴァイオリン賛歌」がHakujuホールにてスタートする。CD多数。文化庁「芸術祭大賞」受賞。東京音楽大学教授。東京芸術大学講師。(公財)練馬区文化振興協会理事長。(公財)日本交響楽振興財団理事。練馬区在住。

【問合せ】練馬区文化振興協会 ☎03-3993-3311